

7 嵐山郷

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、活動等を通して利用者の社会参加を促進した。

また、短期入所の受入れやグループホームの運営、療育拠点施設事業、障害者医科・歯科診療等により在宅障害児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況

(人)

施設種別	性別	定員	前年度末	入 所	退 所	年度末
福祉型障害児入所施設 (障害者支援施設併設)	男	—	1 5	2	7	1 0
	女	—	4	2	3	3
	計	2 5	1 9	4	1 0	1 3
障害者支援施設	男	—	1 8 3	9	6	1 8 6
	女	—	1 3 5	3	5	1 3 3
	計	3 2 9	3 1 8	1 2	1 1	3 1 9
医療型障害児入所施設 療養介護事業所	男	—	2 8	1	0	2 9
	女	—	3 1	2	4	2 9
	計	6 0	5 9	3	4	5 8
計	男	—	2 2 6	1 2	1 3	2 2 5
	女	—	1 7 0	7	1 2	1 6 5
	計	4 1 4	3 9 6	1 9	2 5	3 9 0

(2) 退所の理由

(人)

施設種別	区分	地域 移行	死亡 (病気)	その他	計
福祉型障害児入所施設 (障害者支援施設併設)		1	0	9 (障害者支援施設移行)	1 0
障害者支援施設		1	1 0	0	1 1
医療型障害児入所施設 療養介護事業所		0	4	0	4
計		2	1 4	9	2 5

(3) 障害支援区分 (区分6及び5の割合)

令和2年3月31日現在(人)

	区分	男	女	計	割合
福祉型障害児入所施設 (障害者支援施設併設)	6	0	0	0	—
	5	0	0	0	—
	計	0	0	0	—
障害者支援施設	6	1 5 3	1 2 2	2 7 5	8 6 . 2 %
	5	2 5	9	3 4	1 0 . 7 %
	計	1 7 8	1 3 1	3 0 9	9 6 . 9 %
医療型障害児入所施設 療養介護事業所	6	2 7	2 6	5 3	9 1 . 4 %
	5	0	0	0	0 %
	計	2 7	2 6	5 3	9 1 . 4 %

(4) 通学状況

令和2年3月31日現在(人)

学 校 名	福祉型障害児入所施設	医療型障害児入所施設	計
東松山特別支援学校	12	—	12
熊谷特別支援学校	—	5	5

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況 (人)

科目	健康支援活動 (音楽・レク・アロマ等)	リハ支援	造形 (陶芸・タイルモザイク・絵画等)	手工芸	受託加工Ⅰ	受託加工Ⅱ	計
延べ人数	4,558	965	4,501	1,309	5,705	4,612	21,650

(2) 健康管理の状況

ア 外部医療機関への受診状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに定期的に健康診断を実施して、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。外部通院支援を次のとおり行った。(件・日)

科目 区分	内科・呼吸器科	外科	整形外科	皮膚科	眼科	婦人科	泌尿器科	脳外科	乳癌外科	精神科	耳鼻科	口腔外科	計
入院	27	6	2	0	0	0	4	0	0	0	0	1	40
通院	513	106	59	0	0	0	48	0	0	0	0	4	730
通院件数	33	19	20	13	2	3	49	18	1	17	10	0	185

イ 看護師の巡回

生活援護部を中心に看護師による寮の巡回を行い、利用者の健康状態把握に努めた。

(3) 短期入所

在宅の障害児(者)のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
福祉型障害児入所施設 (障害者支援施設併設)	61件	558日
障害者支援施設	845件	3,478日
医療型障害児入所施設 療養介護事業所	116件	430日
計	1,022件	4,466日

※日中一時支援事業(269件 延べ269日)、一時保護(7件 延べ613日)含む。

(4) グループホームの運営 令和2年3月31日現在 (人)

名 称	定 員	利用人数
嵐山ハイム	6	5
やまゆりハイム	16	14
計	22	19

(5) 療育拠点施設事業

研修会及び連絡調整会議を実施して県内の療育等支援事業所に対する支援を行った。

また、施設職員等に対し、在宅障害児(者)の療育に関する助言指導を行った。

事業区分	開催月及び実施回数
職員研修会等	8月-2回、1月-2回
療育に関する助言指導	39件

(6) 地域生活定着支援センターの運営

刑務所や少年院等から退所予定の障害者・高齢者に対し地域社会への復帰を支援した。(件)

コーディネート	フォローアップ	相談支援	啓発活動等	他機関との会議等
2	13	2	23	51

(7) 医科・歯科診療

ア 医科

障害者一般外来診療を行い、在宅障害児（者）の支援を行った。（人）

診療科目	内科 (小児科)	精神科	耳鼻科	皮膚科	眼科	婦人科	整形外科	計
一般外来延べ人数	253	29	62	7	29	24	12	416
施設内延べ人数	14,774	1,113	372	327	355	105	839	17,885
計	15,027	1,142	434	334	384	129	851	18,301

※ 医療型障害児入所施設、療養介護事業所の診療回数を除く。

イ 歯科

常勤の歯科医師を中心として、歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児（者）の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の改善に努めた。（人・回）

区分	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
実人数	349	329	339	329	301	280	336	337	331	327	305	305	3,868
延べ人数	514	482	453	487	453	436	508	458	352	437	430	437	5,447
内訳	一般外来延べ人数	216	198	207	215	185	170	220	213	212	179	174	2,380
	施設内延べ人数	298	284	246	272	268	266	288	245	140	258	263	3,067
全身麻酔治療回数	1	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	5
鎮静法治療回数	41	52	48	53	42	54	54	50	55	41	35	60	585
訪問診療・口腔衛生指導	39	41	39	46	37	47	60	46	30	51	63	0	499

(8) 保育所

認可保育所として、乳幼児の多様な保育ニーズに対応した。また、音楽・陶芸等嵐山郷の資源を活かした活動を行うほか、高齢者施設訪問を行い地域交流・世代間交流を図った。

令和2年3月1日現在(人)

年齢区分 性別	定員	現 員							計
		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		
男	—	1	6	3	3	6	4	23	
女	—	2	0	5	7	4	8	26	
計	45	3	6	8	10	10	12	49	

(9) 主な行事の実施状況

年月	主な行事内容
令和元. 8	納涼花火大会
9	還暦・成人の祝い
10	嵐山郷まつり
12	年末お楽しみ会、クリスマスコンサート

(10) ボランティアの受入れ

受入延べ人数	主な内容
1,222人	行事、衣類補修、環境美化、買物、理美容等

(11) 実習生の受入れ

区分	実人数	延べ日数
保育士実習	171人	2,052日
社会福祉士実習	2人	26日
介護福祉士実習	2人	30日
歯科衛生士実習	22人	44日
計	197人	2,152日

(12) 見学者の受入れ

受入延べ人数
257人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや保護者との懇談会・アンケート、意見箱の設置、満足度調査、食事の嗜好調査等を通し、利用者及び保護者の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 工事の実施

- ア 厨房棟改修工事・独身宿舎B 3棟外構改修工事
- イ 重度棟1寮空調及び13寮ほか給湯設備改修工事
- ウ 汚水処理場設備改修(Ⅱ期)工事

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い、安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもと、年2回総合防災訓練を行った。また、利用者の障害特性に配慮した消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 防犯体制強化のため、所轄警察署の協力による職員の防犯訓練の実施や機械警備の整備等を行った。

(4) 危機管理体制の充実

ア 夜間の勤務状況等のチェック

夜間における防犯及び事故防止を徹底するため、管理職が夜間の寮棟を不定期に巡回し、危険箇所及び業務遂行のチェック・指導を実施した。

イ 「気づきの力」の充実

ヒヤリハット報告を推進し、寮・部単位及び安全管理委員会で分析を行った。また、寮会議や日々の業務引き継ぎ等を通じて情報共有を行い、早期対応に努めた。

ウ 職員との面談と教育

各部の管理者が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止・権利擁護に関する研修を実施した。

6 職員の育成

(1) 事業団研修体系に基づく職位別研修や、「アロマトリートメント研修」など嵐山郷研修体系に基づく実務研修、虐待防止・権利擁護研修、さらに日常的なOJTを通じて、職員の意識高揚や資質向上に努めたほか、喀痰吸引業務認定者や強度行動障害支援者の認定資格者の育成を行った。また各種団体が主催する外部研修を積極的に活用し、専門性向上やモチベーションを高める取り組みを行った。

(2) 年々増加している喀痰吸引を必要とする利用者に対応するため、喀痰吸引等を実施できる認定特定行為業務従事者を令和元年度に4人、累計で50人養成した。

(3) 各部が年間を通じて取り組んだ課題について、発表・討議を行う研究事業発表会を開催した。令和元年度の研究テーマは、「地域移行対象児童の自立支援及び退所までのプロセス」「強度行動障害への取り組み」「外国人技能実習生を迎えて」等であった。

(4) 埼玉県から事業指定を受けて強度行動障害支援者養成研修を実施したほか、埼玉県社会福祉協議会と連携し、他施設職員等を対象に摂食嚥下リハビリテーション研修会を開催した。

8 あすなろ学園

利用者が自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、生産活動等をととして利用者の社会参加を促進した。

1 利用者状況

(1) 利用状況

(人)

区分 性別	定員	前年度末	新規利用者	退 所	年度末
男	—	30	1	2	29
女	—	16	1	0	17
計	50	46	2	2	46

(2) 退所の理由

(人)

区分 性別	他施設利用	その他	計
男	2	0	2
女	0	0	0
計	2	0	2

(3) 障害支援区分

令和2年3月31日現在(人)

区 分	男	女	計	割 合
6	1	1	2	4.3%
5	6	2	8	17.4%
4	9	4	13	28.3%
3	6	3	9	19.6%
2	1	2	3	6.5%
区分なし	6	5	11	23.9%
計	29	17	46	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況

(人)

	受託作業		自主生産活動			創作活動
	第1作業室	第2作業室	農園芸・EM	さをり織り	陶芸他	
男	16	13	15	1	14	16
女	7	10	2	8	6	7
計	23	23	17	9	20	23

(2) 生産品等の販売支援及び地域貢献事業

北本市役所内で週に1回生産品等を販売、北本市内に月2回ほど（タウン広報誌）の配布、近隣の墓地清掃を月2回程度実施し、利用者の社会参加と自立に向けた支援を行った。

(利用者参加延べ人数)

市役所販売	ほど（タウン広報誌）配布	墓地清掃
98人	94人	72人

(3) 健康管理の状況

日ごろから利用者の健康観察を行うとともに健康診断・歯科検診及び嘱託医師による定期的な健康相談を実施し、疾病の早期発見・早期治療及び予防に努めた。

回数	延べ人数
健康相談 12回	509人
健康診断 2回	88人
歯科健診 1回	43人
合 計	640人

(4) 相談支援事業

障害者及び障害児相談支援事業を実施し、在宅の障害者（児）を支援した。

(障害者相談支援事業)

(件)

訪 問	外 来	電 話	計
267	118	221	606

(5) 主な行事の実施状況

年 月	主 な 行 事 内 容
令和元. 5	地域ディサービスさをり織り体験会
6	ホットハートフェスティバル販売・小集団外出（上野方面）・さをり織り教室開催 前期健康診断
7	中丸公民館七夕まつり販売・西部公民館サマーフェスティバル販売・ 小集団外出（水族館）・さをり織り教室開催・地域ディサービスさをり織り体験会
8	さをり織り、陶芸絵付体験開催
9	レクリエーション大会・北本高校文化祭販売・北本福祉まつり販売 つばさの森販売・北本市シルバーまつり販売・ 地域ディサービスさをり織り体験会
10	小集団外出（東京方面、動物園）・総合防災訓練・草加市蒲公英の丘まつり販売 ふれあいピック参加
11	園外活動（第1作業室）・社会科見学（第2作業室） 北本産業まつり販売・人権フェスティバル販売 小集団外出（ドライブ、工場見学）・歯科検診
12	年末お楽しみ会・仕事納めの会・後期健康診断
令和2. 1	仕事始めの会・ホットハートフェスティバル販売・ボウリング大会
2	さをり織り・陶芸絵付体験開催
3	ボランティア懇談会

(6) ボランティアの受入れ

受入延べ人数	主 な 内 容
421人	受託作業やさをり織り等自主生産活動、市役所販売やレクリエーション大会の補助など

(7) 実習生の受入れ

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
保育士実習	20人	228日
介護体験実習	10人	50日
計	30人	278日

(8) 見学者の受入れ

受入延べ人数
72人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや保護者との連絡会、利用者による当事者活動、意見箱の設置、満足度調査、食事の嗜好調査等を通じて、利用者及び保護者の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもと年1回総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 警察署員の協力のもと、不審者対応等の防犯訓練を実施し緊急時に対応できる体制づくりと職員の防犯意識の向上に努めた。

(4) 危機管理体制の充実

ア 勤務状況のチェック

園長が現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

イ 問題兆候への「気づき」

連絡会等において情報交換を綿密に行うとともに、ニーズ調査などの機会も利用し、職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。また、危機管理委員会を中心に事故報告及びヒヤリハット報告を分析し、事故防止に努めた。

ウ 職員との面談と教育

園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、虐待防止に関する研修を実施した。

6 職員の育成

(1) 救急法や感染症対策研修、権利擁護・虐待防止研修等の施設内研修を実施した。また、事例検討会の実施や日常的にOJTを推進することで、職員の資質や支援の向上に努めた。

(2) 職員の専門性を高めるため、経験年数等に応じた研修計画のもと、外部機関が主催する研修に積極的に参加した。連絡会や会議等にて研修報告を行うことで、職員間での情報の共有を図った。

9 皆光園

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、機能訓練等の日中活動を充実させ、利用者の身体機能の維持・向上を図った。

また、短期入所の受入れやデイサービスの運営、聴能訓練、障害者歯科診療等により在宅障害者児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況 (人)

性別 \ 区分	定員	前年度末	入所	退所	年度末
男	—	24	1	1	24
女	—	25	1	1	25
計	50	49	2	2	49

(2) 退所の理由 (人)

性別 \ 区分	死亡(病气)	その他	計
男	1(急性心不全)	0	1
女	1(肺炎)	0	1
計	2	0	2

(3) 入所者の障害の状況

ア 疾病の状況

令和2年3月31日現在(人)

疾病 \ 区分	男	女	計	割合
脳性小児マヒ	11	14	25	51.0%
脳血管障害	5	2	7	14.3%
脊髄損傷等	4	1	5	10.2%
進行性筋萎縮症	0	1	1	2.0%
その他	4	7	11	22.5%
計	24	25	49	100.0%

イ 障害支援区分の状況

令和2年3月31日現在(人)

区分	男	女	計	割合
6	24	22	46	93.9%
5	0	3	3	6.1%
4	0	0	0	0.0%
計	24	25	49	100.0%

ウ 身体障害の等級

令和2年3月31日現在(人)

等級	男	女	計	割合
1級	19	17	36	73.5%
2級	4	7	11	22.5%
3級	1	0	1	2.0%
5級	0	1	1	2.0%
なし	0	0	0	0.0%
計	24	25	49	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。
また、創作活動、個別活動、健康支援や外出行事等を通じて日中支援の充実を図った。

(1) 日中支援の状況 (人)

種目 性別	俳句	七宝焼	民謡	カラ オケ	書道	童謡	花の箱	音楽 活動	延人員	実人員
男	1	0	3	5	3	7	0	10	29	13
女	3	7	6	9	5	9	6	14	59	21
計	4	7	9	14	8	16	6	24	88	34

(2) 機能訓練の状況

利用者の身体機能の維持・向上のために機能訓練を実施した。

対 象	機能訓練(実人数)
入所利用者	41人

(3) 短期入所

在宅の障害児(者)のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
障害者支援施設	50件	156日

(4) デイサービス

地域の障害者に対して、ニーズの高い機能訓練を中心とした支援を実施した。 (人)

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約人数	27	27	26	27	28	28	28	28	28	28	26	26	327
利用延人数	225	231	235	254	247	228	229	240	225	221	228	172	2,735

(5) 聴能訓練の状況

就学前の難聴児に対して、日常生活の適応に必要な聴能訓練を実施するとともに、地域の学校等からの依頼に応じ聴力検査、予後指導を実施した。

訓練児童数	訓練延べ人数
24人	1,640人

(6) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科の嘱託医師により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断を実施した。

(人)

科目 区分	内科	外科	整形 外科	眼科	耳鼻科	泌尿 器科	心療 内科	その他	計
通院	1,150	51	123	26	6	70	188	264	1,878
内 訳	嘱託医	1,036	0	105	0	0	188	0	1,329
	その他	114	51	18	26	6	70	264	549
入院	6	7	0	0	0	2	0	1	16

(7) 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児（者）の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の改善に努めた。

また、利用者の摂食機能の低下に適切に対応するため、専門医による助言・指導を実施した。

(人・回)

区 分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	実人数		257	265	288	310	282	282	278	249	270	274	265	311
延べ人数		304	320	365	373	358	340	350	288	329	340	321	377	4,065
内 訳	外 来	291	299	337	358	338	318	331	275	311	331	309	357	3,855
	入 所	13	21	28	15	20	22	19	13	18	9	12	20	210
全身麻酔治療回数		8	5	4	4	7	4	6	5	3	4	4	5	59
鎮静法治療回数		36	32	30	35	37	38	29	32	30	42	20	45	406

(8) 主な行事の実施状況

年 月	主 な 行 事 内 容
3 1. 4	三者合同歓送迎会 日帰り外出（通年） 園外買物（通年）
令和元 . 5	身障協ゲーム交流会 聴能野外訓練
6	身障協スポーツ交流会
7	聴能・デイ合同見学会
9	皆光園祭
1 0	身障協外出交流レク
1 1	身障協文化作品展 デイ日帰り旅行
1 2	利用者忘年会 聴能クリスマス会
令和2 . 1	映画観賞会
2	聴能節分会
3	聴能修了式

(9) ボランティアの受入れ

受入延べ人数	主 な 内 容
6 8 4 人	買物の付き添い、理美容、食事介助、創作活動、行事、聴能訓練全体行事

(10) 実習生の受入れ

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
介護福祉士実習	5人	81日
社会福祉士実習	4人	92日
保育士実習	7人	75日
介護体験（教員免許）	8人	40日
言語聴覚士	1人	19日
計	25人	307日

(11) 見学者の受入れ

受入延べ人数
1 3 9 人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや利用者参加の生活委員会、保護者会への参加、意見箱の設置、満足度調査、食事の嗜好調査等を通し、利用者及び家族の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 施設の整備

皆光園本体施設実施設計（1年目）。管理、居住棟、車庫、非常用倉庫、意匠図、構造計算書および構造図完成。職員宿舍等解体工事完了。

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保と安定したサービス提供及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもと年1回総合防災訓練を行うとともに利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 不審者の侵入対策として、防犯カメラの設置及び警備会社へ直接通報できる携帯型の非常通報装置等を配備し防犯体制の充実を図った。また、警察署員の協力のもと不審者侵入を想定した防犯訓練を実施した。

(4) 危機管理体制の充実

ア 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長の管理職及び夜間リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況の確認・指導を実施した。

イ 情報共有と早期の問題点把握

会議や連絡会等における情報交換を密に行うとともに、利用者への聞き取りの内容も活用し、問題点やその兆候の把握に努めた。また、契約職員を含む全職員との個別面談を実施した。

ウ 「気づき」の力の醸成と事故防止

ヒヤリハット報告を推進し、支援面や環境面の課題を共有することにより、施設内事故の発生数を減少させた。

6 職員の育成

(1) 支援研修

施設内研修として、全職員を対象に虐待防止・権利擁護研修を実施した。また、摂食嚥下研修、口腔ケア研修、障害特性の理解のほか、夜間急変時シミュレーション訓練などテーマを決めて研修を実施し支援に活かした。

さらに、外部研修等に参加し、支援者としての資質・技術の向上に努めた。

(2) 医療研修

看護師を講師とし、転入職員等を対象に薬の知識・与薬及び感染症対策について研修を行った。

10 そうか光生園

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、機能訓練等の日中活動を充実させ、利用者の身体機能の維持・向上を図った。

また、短期入所の受入れや地域活動支援センターの運営、聴能訓練、相談支援事業、障害者歯科診療等により在宅障害児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況 (人)

性別 \ 区分	定員	前年度末	入所	退所	年度末
男	—	30	1	2	29
女	—	20	1	1	20
計	50	50	2	3	49

(2) 退所の理由 (人)

性別 \ 区分	死亡(病気)	その他	計
男	2	0	2
女	0	1 (長期入院、他施設移行)	1
計	2	1	3

(3) 入所者の障害の状況

ア 疾病の状況

令和2年3月31日現在 (人)

疾病 \ 区分	男	女	計	割合
脳性小児マヒ	14	9	23	46.9%
脳血管障害	6	4	10	20.4%
頭部外傷	3	1	4	8.2%
小脳変性症	0	2	2	4.1%
脊髄損傷等	2	0	2	4.1%
その他	4	4	8	16.3%
計	29	20	49	100.0%

イ 障害支援区分の状況

令和2年3月31日現在 (人)

区分	男	女	計	割合
6	22	17	39	79.6%
5	7	3	10	20.4%
4	0	0	0	0.0%
計	29	20	49	100.0%

ウ 身体障害の等級

令和2年3月31日現在 (人)

等級	男	女	計	割合
1級	23	17	40	81.6%
2級	4	3	7	14.3%
3級	2	0	2	4.1%
計	29	20	49	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定するとともに、利用者がその人らしい生活と社会活動への参加ができるような支援に努めた。

(1) 日中支援の状況 (人)

種目 性別	オセロ 将棋	ソング ソング	書道	つくる	スポーツ	延人員	実人員
男	10	10	8	11	10	49	20
女	8	8	3	4	11	34	14
計	18	18	11	15	21	83	34

※その他に陶芸・生け花・車いすダンス等の活動を実施した。(参加者は随時)

(2) 機能訓練の状況

利用者の身体機能の維持・向上のために機能訓練を実施した。

対 象	機能訓練(実人数)
入所利用者	50人

(3) 短期入所

在宅の障害児(者)のニーズに応えるため、短期入所を積極的に受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
障害者支援施設	295件	1,047日

(4) 地域活動支援センター

在宅障害者を対象に創作活動、社会適応訓練等の支援を提供した。

(人)

月 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
契約人数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11	11	10	140
利用延人数	51	49	42	48	57	47	49	52	41	47	40	35	558

(5) 聴能訓練の状況

就学前の難聴児に対して、日常生活の適応に必要な聴能訓練を実施するとともに、地域の学校等からの依頼に応じ聴力検査、予後指導を実施した。

訓練児童数	訓練延べ人数
40人	2,229人

(6) 相談支援事業

障害者相談支援事業及び障害児等療育支援事業を実施し、在宅の障害児(者)を支援した。

ア 障害者相談支援事業 (件)

訪 問	外 来	電 話	計
551	37	2,600	3,188

イ 障害児等療育支援事業 (件)

在宅支援訪問療育等指導	在宅支援外来療育等指導	施設支援一般指導	計
187	7	145	339

※他に、障害児発達支援巡回事業を幼稚園を対象に、延べ27回実施した。

(7) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科の嘱託医師により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断を実施した。

(人)

科目 区分	内科	外科	整形 外科	眼科	皮膚科	泌尿 器科	心療 内科	その他	計
通 院	2,053	9	96	17	13	45	59	210	2,502
内 訳	嘱託医	1,959	0	92	0	0	59	0	2,110
	その他	94	9	4	17	13	0	210	392
入 院	3	0	0	0	0	1	0	0	4

(8) 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児（者）の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の改善に努めた。

また利用者の摂食機能の低下に適切に対応するため、歯科医師による助言・指導を実施した。

(人・回)

区 分		月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
実人数		174	194	186	188	213	186	164	188	197	176	196	193	2,255
延べ人数		200	220	219	224	289	213	194	212	216	192	211	223	2,613
内 訳	外 来	190	205	208	215	228	203	183	198	206	183	200	205	2,424
	入 所	10	15	11	9	61	10	11	14	10	9	11	18	189
全身麻酔治療回数		4	4	4	4	0	4	5	4	3	3	4	4	43
鎮静法治療回数		31	25	32	37	40	39	31	22	31	38	29	28	383

(9) 主な行事の実施状況 (他に毎月2回の買い物行事、週2～3回の個別支援を実施)

年 月	主 な 行 事 内 容
3 1. 4	新規・転入職員交流会、聴能運動会
令和元. 5	日帰り外出 (大崎公園)、身障協ゲーム交流会、聴能野外訓練
6	日帰り外出 (イオンモール浦和美園、レイクタウン、カラオケ) 身障協スポーツ交流会、第1回オセロ・将棋大会 聴能お泊り合宿
7	日帰り外出 (川口オート、せんべい焼き、スカイツリー)
8	花火行事、聴能夕涼み会・日帰り外出 (ボウリング)
9	日帰り外出 (鉄道博物館)、第1回オセロ・将棋大会
1 0	秋まつり、日帰り外出 (東武動物公園、レイクタウン) 施設内高齢化対策研修、身障協外出交流レク、聴能児童野外訓練
1 1	日帰り外出 (川口スキップシティ、スカイツリー)、 身障協文化作品展、草加福祉まつり、聴能野外訓練、施設内摂食嚥下研修 第2回オセロ・将棋大会
1 2	年忘れの会、聴能児童クリスマス会、日帰り外出 (キューピー五霞工場)
令和2. 1	施設内権利擁護研修 聴能もちつき大会
2	身障協ゲーム交流会、ボランティア連絡会、第2回オセロ・将棋大会

(10) ボランティアの受入れ

受入延べ人数	主 な 内 容
697人	入浴時の整容補助、クラブ活動、環境美化、買物外出、理美容等

(11) 実習生の受入れ

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
社会・介護福祉士等実習	97人	520日
言語聴覚士実習	4人	89日
計	101人	609日

(12) 見学者の受入れ

受入延べ人数
675人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや家族との連絡会、利用者満足度調査、食事の嗜好調査、意見箱の設置等を通し、利用者及び家族の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い、安全確保・事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもとに年1回総合防災訓練を行うとともに、利用者の障害特性を考慮の上、避難誘導訓練、消火訓練、災害伝言ダイヤルを活用した夜間連絡訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 不審者対応等の防犯訓練を実施し、職員の防犯意識の向上に努めた。

(4) 危機管理体制の充実

ア 夜間の勤務状況のチェック

園長、副園長などの管理職及び夜勤者リーダーが夜間の現場を不定期に巡回し、勤務状況のチェック・指導を実施した。

イ 問題兆候への「気づき」

事故防止を図るため、ヒヤリハット事案の報告と改善に、施設をあげて積極的に取り組んだ。また、「気づき」に基づく職場改善の提案と実現に努めた。

ウ 職員との面談と教育

園長及び副園長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施するとともに、虐待防止に関する研修を実施した。

6 職員の育成

(1) 施設内研修

支援の向上のため、「車いす・装具、看護・介護技術」及び「接遇」等の研修により知識を深めるとともに、虐待防止・権利擁護については外部講師を招き、全職員対象に講義を行った。

利用者の高齢化への対応については、嘱託医による講義研修を行ったほか、摂食・嚥下相談の一環として歯科医師による嚥下のメカニズムや注意点などに関する研修を近隣福祉施設職員にも呼びかけて開催した。

(2) 施設外研修

埼玉県総合リハビリテーションセンターなどが主催する各テーマ別研修に各職員の経験年数やスキルに合わせて派遣した。「虐待防止・権利擁護研修」「高次脳機能障害に関する研修」「アンガーマネジメント研修」「支援力向上研修」など、現在の施設の現状に合わせた研修内容に適材適所に派遣し、人材育成に努めた。

1 1 あさか向陽園

利用者が安全で自立した生活ができるよう、利用者の特性に応じた支援を行うとともに、生産活動等を通し利用者の社会参加を推進した。

また、短期入所の受入れや障害者歯科診療等により在宅障害児（者）の支援を行った。

1 利用者状況

(1) 入退所の状況

(人)

障害福祉サービス種別		定員	性別	前年度末	入所	退所	年度末	
生活介護・施設入所支援		40	男	27	3	1	29	
			女	9	0	1	8	
			計	36	3	2	37	
就労継続支援B型	身体障害	40	男	7	1	1	7	
			女	4	0	1	3	
			計	11	1	2	10	
	知的障害	40	男	16	0	0	16	
			女	5	0	1	4	
			計	21	0	1	20	
	精神障害	40	男	0	0	0	0	
			女	3	1	0	4	
			計	3	1	0	4	
	計			男	23	1	1	23
				女	12	1	2	11
				計	35	2	3	34
合計	80	男	50	4	2	52		
		女	21	1	3	19		
		計	71	5	5	71		

(2) 退所の理由

(人)

種別	区分	死亡(病気)	その他	計
	生活介護・施設入所支援		1	1 (他施設移行)
就労継続支援B型		0	3 (他施設移行等)	3
計		1	4	5

(3) 利用者の疾病の状況

令和2年3月31日現在 (人)

疾病	区分	男	女	計	割合
	入所	脳血管障害	13	3	16
脳性マヒ		5	1	6	16.2%
脊髄損傷		1	0	1	2.7%
頭部外傷等		4	0	4	10.8%
脳性小児マヒ		1	1	2	5.4%
その他		5	3	8	21.6%
計		29	8	37	100.0%
通所	脳血管障害	2	0	2	14.3%
	脳性マヒ	1	2	3	21.4%
	頭部外傷等	2	0	2	14.3%
	その他	2	5	7	50.0%
	計	7	7	14	100.0%

(4) 利用者の障害の状況

ア 入所利用者

(ア) 障害支援区分の状況

令和2年3月31日現在(人)

区分	男	女	計	割合
6	4	0	4	10.8%
5	7	1	8	21.6%
4	14	4	18	48.7%
3	4	3	7	18.9%
計	29	8	37	100.0%

(イ) 身体障害の等級

令和2年3月31日現在(人)

等級	男	女	計	割合
1級	9	3	12	34.3%
2級	13	4	17	48.6%
3級	2	0	2	5.7%
4級	1	1	2	5.7%
級なし	2	0	2	5.7%
計	27	8	35	100.0%

(ウ) 療育手帳の区分

令和2年3月31日現在(人)

区分	男	女	計	割合
C	2	0	0	100.0%
計	2	0	2	100.0%

イ 通所利用者

(ア) 身体障害の等級

令和2年3月31日現在(人)

等級	男	女	計	割合
1級	3	1	4	40.0%
2級	2	1	3	30.0%
3級	1	0	1	10.0%
4級以下	1	1	2	20.0%
計	7	3	10	100.0%

(イ) 療育手帳の区分

令和2年3月31日現在(人)

区分	男	女	計	割合
A	2	1	3	15.0%
B	10	2	12	60.0%
C	4	1	5	25.0%
計	16	4	20	100.0%

(ウ) 精神障害の等級

令和2年3月31日現在(人)

等級	男	女	計	割合
1級	0	0	0	0.0%
2級	0	1	1	25.0%
3級	0	2	2	50.0%
なし	0	1	1	25.0%
計	0	4	4	100.0%

2 利用者支援

利用者ニーズに基づく個別支援計画を策定し、利用者の特性に応じた支援を行った。

(1) 日中支援の状況(入所利用者と通所利用者の合計)

(人)

科目 性別	プリント (印刷科)	フリーメイト (加工科)	ハートソーイング (縫製科)	キャロット (知的加工科)	計
男	5	28	3	16	52
女	2	8	5	4	19
計	7	36	8	20	71

(2) 短期入所

在宅の障害児（者）のニーズに応えるため、短期入所を受け入れた。

区 分	受入延べ件数	延べ日数
障害者支援施設	143件	882日

(3) 健康管理の状況

利用者の健康管理については、内科、整形外科及び心療内科等の嘱託医師との連携により、日常的な健康管理を行うとともに、定期健康診断やインフルエンザ予防接種等を実施した。

(人)

科目 区分	内科	外科	整形 外科	脳 外科	眼科	婦人 科	泌尿 器科	精神科・ 心療内科	皮膚・ 耳鼻科	計
通 院	539	1	239	43	14	0	48	183	41	1,108
内 訳	嘱託医	117	0	116	0	0	0	0	42	275
	その他	422	1	123	43	14	48	141	41	833
入 院	5	1	1	3	0	0	1	3	0	14

※皮膚科・耳鼻科 53 人のうち、耳鼻科通院 1 人を含む。

(4) 歯科診療

常勤の歯科医師を中心として、県及び郡市歯科医師会等関連機関の協力のもとに、障害児（者）の歯科治療や口腔衛生指導を行い、在宅障害児（者）の治療及び口腔機能の改善に努めた。

(人・回)

区 分 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実人数	209	207	199	226	214	189	196	196	193	187	195	185	2,396
延べ人数	252	243	257	269	253	219	237	227	219	211	219	241	2,847
内 訳	外 来	222	218	245	255	231	208	226	213	195	203	224	2,647
	入 所	30	25	12	14	22	11	11	20	6	16	17	200
全身麻酔治療回数	1	1	2	2	1	0	1	1	0	0	0	1	10
鎮静法治療回数	39	33	39	50	49	43	39	37	48	33	38	53	501

(5) 主な行事の実施状況

年 月	主 な 行 事 内 容
31. 4	自治会総会 黒目川花まつり出張販売（朝霞市）市役所販売 お花見弁当
令和元. 5	自治会臨時総会 ボランティア懇談会 園内レク大会 園内消毒
	町内会総会 市役所販売
6	防災訓練 家族連絡会 セルフ祭り販売会（さいたま市）市役所販売
7	利用者健康診断 市区町村連絡会 市役所販売 利用者との話し合い
8	利用者自治会暑気払い 夏季大掃除 市役所販売
9	防災訓練 ふれあいスポーツ大会（朝霞市）市役所販売 日中活動開始
10	向陽祭 市役所販売
11	総合防災訓練（兼福祉避難所設置訓練）、インフルエンザ予防接種 はあとびあ販売会（朝霞市）市役所販売（朝霞市）県子ども作業体験
12	利用者との話し合い 利用者自治会忘年会 冬季大掃除 市役所販売
令和2. 1	新年会 防災訓練 AED研修 市役所販売 青色プロジェクト参加
	利用者健康診断 防犯研修 市役所販売

(6) ボランティアの受入れ

受入延べ人数	主 な 内 容
1,525人	作業補助、環境美化、植栽、行事開催等

(7) 実習生の受入れ

区 分	実 人 数	延 べ 日 数
社会福祉士実習	10人	217日
保育士実習	29人	345日
歯科衛生士実習	24人	48日
計	63人	610日

(8) 見学者の受入れ

受入延べ人数
226人

3 利用者等のニーズの把握及び対応

日常での利用者との関わりや定期の個別面談、意見箱の設置、利用者との話し合い、家族連絡会、満足度調査、食事の嗜好調査等を通し、利用者及び家族の意向や要望を把握し、支援内容の向上に努めた。また、感染症予防、食事と栄養、身体機能の維持等に関する利用者向け研修を開催し、個別の状況に応じた相談受付や健康増進への取組みを進めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 保守点検の実施

利用者の安全確保とサービスの向上及び施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(2) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要性が生じた時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 利用者を災害から守るため、法令に基づく建物、防災機器及び各種機器設備等の保守点検を定期的に行い、安全確保と事故防止に万全を期した。

(2) 消防署の指導のもと年1回総合防災訓練を行うとともに、利用者の障害特性を考慮の上、消火・避難誘導訓練等を実施し、災害予防と安全の確保に努めた。

(3) 防犯対策として、さす又・防犯スプレー等の配備と夜間の施設管理を徹底するとともに、不審者侵入を想定した警察署員による防犯研修を実施した。

(4) 危機管理体制の充実

ア 勤務状況のチェック

園長、副園長による巡回及び夜間リーダーによる夜間巡回を行い、勤務状況のチェック・指導を実施した。

イ 問題兆候への「気づき」と改善

支援担当会議や危機管理委員会等における情報交換を綿密に行うとともに、朝の連絡会や部署ごとの打合せなどの機会を利用し、職員全員で問題点やその兆候の把握と改善に努めた。また、「ヒヤリハット」の収集・分析を通じて発生予防策を講じ、事故防止に努めた。

ウ 職員との面談と教育

園長、副園長による個別面談を実施したほか、「障害者虐待防止チェックリスト」等によるセルフチェックを実施し、その結果について職員会議などで振り返りを行った。また、施設内全体研修を定期的に行い、職員の資質向上を図ることで良質なサービスの提供に努めた。

6 職員の育成

(1) 権利擁護研修

虐待防止・権利擁護に関する外部研修への参加やグループワークを活用した内部集合研修等を行い、支援者としての資質・意識の向上に努めた。

(2) 感染症研修

給食保健衛生委員会での啓発や手洗いチェッカーを用いた実技研修会などを開催し、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症に関する学習を通じて、正しい対応方法を学んだ。

(3) 救命救急講習会

朝霞消防署救急隊員の指導による救命救急訓練を受講し、心肺蘇生法及びAEDの使用方法等の習得を図った。

12 障害者交流センター

各種文化・スポーツ教室等の開催及び障害者スポーツ指導員やボランティアの養成に努めるとともに、地域支援事業として、文化・スポーツプログラムを県内各地で実施した。

また、福祉体験講座やレクリエーション指導を行い、福祉意識の啓発と福祉活動への参加を促進した。

1 利用者状況

(1) 利用状況

(人)

		延べ利用者数	うち障害者数 (比率)
施設利用	スポーツ施設 (体育館、プール等)	111,711	80,886 (72.4%)
	文化施設 (音楽室、調理研修室等)	72,827	34,151 (46.9%)
	計	184,538 (障害者 115,037 (62.3%)) (介護者等 69,501 (37.7%))	

		延べ参加者数	うち障害者数 (比率)
事業関係	相談事業	322	90 (28.0%)
	啓発事業	2,421	139 (5.7%)
	スポーツ事業	10,535	4,561 (43.3%)
	文化・芸術事業	9,258	3,217 (34.7%)
	交流事業	958	615 (64.2%)
	計	23,494 (障害者 8,622 (36.7%)) (介護者等 14,872 (63.3%))	

合計 (施設利用 + 事業関係)	208,032 (障害者等 123,659 (59.4%)) (介護者等 84,373 (40.6%))
------------------	--

(2) 年齢別利用証交付状況

(人)

区分 年齢別	男	女	計
0歳～9歳	110	40	150
10歳～19歳	134	71	205
20歳～29歳	47	30	77
30歳～39歳	24	18	42
40歳～49歳	45	25	70
50歳～59歳	43	17	60
60歳以上	36	20	56
計	439	221	660

(3) 送迎バス利用状況

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	6,302	6,984	7,375	6,980	7,023	6,759	6,526	6,578	6,232	6,418	6,158	235	73,570

2 利用者支援

(1) スポーツ事業

主な事業	種目・内容	延参加者数(人)
スポーツ大会・フェスティバル	アーチェリー・陸上・水泳・サッカー4競技	1, 412
健康増進日常プログラム	体育館・屋外種目・プール(106回)/みんなでスポーツ卓球・バドミントン・ショートテニス(74回)	1, 797
健康増進生涯スポーツ	ショートテニス・ボッチャ、ヨガ吹き矢等(38回)	614
スポーツプログラム	アーチェリー・卓球・水泳・陸上競技・子ども等(94回)	1, 164
養成事業	ボランティア・スポーツ指導員養成講習会・総合学習他	3, 420
地域支援	スポーツ・レクリエーション教室 <(6)ア掲載>	1, 862
個人指導		4, 729

(2) 文化・芸術事業

主な事業	種目・内容	延参加者数(人)
文化教室	料理・蕎麦打ち等(65回)	2, 428
パソコン教室	視覚障害、その他障害向け(7回)	85
ホール等での催し	寄席・映画鑑賞会・ミニコンサート等(26回)	2, 851
おもちゃ図書館事業	おもちゃ図書館、図書館連絡会交流会	146
ボランティア養成講座	朗読ボラ・パソコンボラ・デザイン等講座等(11回)	95
地域支援	出張福祉機器展、創作活動 <(6)イ掲載>	2, 810

(3) 相談事業

主な事業	内容	延参加者数(人)
医事相談	医師による相談・助言等(3回)	8
リハビリ相談	理学療法士による相談・助言等(11回)	49
その他の相談	福祉用具等に関する相談、おもちゃ病院	206

(4) 啓発事業

主な事業	対象	延参加者数(人)
福祉体験学習等	中高生福祉体験講座	20
施設見学受入れ	障害者団体・一般	132

(5) 初級障害者スポーツ指導員養成講習会

川口市と桶川市で開催し、計65人に修了証を交付した。

(6) 地域支援事業

障害のある人が身近な地域で文化・スポーツなどの社会活動に参加できる環境を段階的に整備することを目的に実施した。スポーツ分野では、13地域計51回(さいたま市18・上尾市9・蕨市2・戸田市1・桶川市1・坂戸市1・滑川町1・吉見町1・熊谷市1・深谷市1・加須市7・春日部市1・越谷市7)の地域支援を実施した。文化芸術分野では、創作活動は9回(本庄市2・越谷市2・川越市1・さいたま市1・川口市1・鴻巣市1・上尾市1)で、福祉機器展示は6回(さいたま市1・春日部市1・久喜市1・吉見町1・伊奈町1・三芳町1)の地域支援を実施した。

ア スポーツ分野の地域支援

主な事業	実施状況	内容	実施回数
スポーツ・レクリエーション教室	熊谷市・深谷市等	スポーツ指導員派遣	51回

イ 文化・芸術分野の地域支援

主な事業	実施状況	実施回数
出張福祉機器展示	春日部市、三芳町等6市町で開催	6回
創作活動	本庄市、川越市等の7市の福祉施設で開催	9回

(7) 交流事業

主な事業	開催日	参加者数(人)
納涼祭	7月28日	958

(8) その他の事業

ア 広報紙の発行

広報紙「わいわい広場」を毎月発行し（部数4,000部）、センター事業に関する情報発信に努めた。

イ 作品展示コーナー

障害者等の文化的創作活動について発表する場を提供し、活動意欲の向上を図るとともに、障害者の社会活動を広く県民に知らせることを目的として、絵画・写真等の作品を展示した。

ウ サークル育成支援

文化・芸術及びスポーツサークルの掲示板を設置し、多くの利用者に活動内容を紹介した。

(9) 実習生の受入れ

区 分	実人数	延べ日数
社会福祉士等実習	5人	64日
ヒューマンケア体験実習	4人	16日
職場体験実習未来くるワーク	8人	24日
計	17人	104日

3 利用者等のニーズの把握及び対応

定期的なアンケートの実施、投書箱の設置、埼玉県障害者交流センター運営連絡会や地域懇談会等の開催などを通し、利用者、障害者団体及び地域住民の意向や要望を把握し、サービスの向上に努めた。

4 施設・設備の維持管理

(1) 改修工事等の実施

防犯カメラの改修、送迎バスのトランスミッション修繕、エレベーターの全面改修などを行った。

(2) 保守点検の実施

利用者の安全確保と良好な施設環境を維持するため、計画的な施設・設備の保守点検等を実施し、適正な維持管理を行った。

(3) 施設内点検

職員による定期的な施設内点検を実施し、改善・補修の必要時には速やかに対応した。

5 危機管理への対応

(1) 防災訓練

防災に対する職員意識の高揚と、非常時に対する現実的対応を主眼に防災訓練を実施した。また、安心・安全の観点から防災設備・機器等の取扱訓練を行った。

実施日	訓練内容
4月16日	防災設備取扱訓練（総合防災監視盤、防火扉、防火シャッター）
11月14日	総合防災訓練（避難誘導・通報訓練）

(2) 危機管理体制の強化

ア 勤務状況のチェック

所長・副所長が不定期に巡回し、勤務状況や施設状態のチェックを実施した。

イ 問題兆候への「気づき」

会議等、情報交換を綿密に行うとともに、職員全員で問題点やその兆候の把握に努めた。

ウ 職員との面談と教育

所長が契約職員を含む全職員との個別面談を実施したほか、接遇（サービス提供）に関する研修を実施した。

6 職員の育成

(1) 施設外研修

埼玉県社会福祉協議会や埼玉県総合リハビリテーションセンター等の、外部機関が主催する研修会へ積極的に参加させ、職員の経験年数やスキルに応じて、専門性の向上に努めた。また、研修参加者から月1回の全体会議日に研修内容について報告し、職員間での情報共有を図った。

(2) 施設内研修

「スマイル・セーフティー・スピーディ」をモットーに、常に利用者の立場に立ったサービスが提供できるよう、接遇研修や心肺蘇生法研修、救急救命講習会など、より実践を通じた研修を行い専門性の向上に努めた。

また、利用する方々への理解を深めるため、精神疾患や権利擁護に関する研修を取り入れ実施した。